

現代企業の所有構造

	日本企業(～1990年代前半)	アメリカ企業
主要株主	法人株主	機関投資家(※1)
持株売買	滅多に売買しない (安定株主)	1960年代後半～:頻繁な持株売買 (浮動株主) ウォール・ストリート・ルール(※2)にのっとる
		1990年代～ ウォール・ストリート・ルールに基づかず、 株式を積極的に売却しなくなった。
株主利益	軽視 (メインバンク重視)	重視

※1 機関投資家・・・顧客の資金を預かりそれを株式や債権等に投資・運用して利益をあげることを目的とする法人
EX)年金基金(公務員退職年金基金のカルパースが著名)、生命保険、投資信託など

※2 **ウォール・ストリート・ルール**・・・投資の運用利回りを上げるため投資先企業の業績が悪化すれば躊躇なく株式を売却し、より優良な企業の株式投資へ向かうという投資行動のこと。